



熊谷市立久下小学校

校長 齋藤 久美子

一 学校の沿革

久下小学校は、明治十九年四月一日に大里郡久下村、新川村、佐谷田村連合啓発学校として、久下医王寺前民家に開校した。その後、明治二十二年五月二十三日に分離し大里郡久下村小学校として医王寺に開校し(学齢児童三八二人)、この日が現在の開校記念日となっている。

大正十二年、高等科を併置し大里郡久下村尋常高等小学校となった九月、関東大震災により校舎が甚大な被害を受ける。児童職員全員無事。

昭和十九年、東京京華国民学校より学童疎開約五十人を受け入れる。昭和二十二年、校名を熊谷市立久下小学校と変更し、現在に至る。令和六年度在籍児童二二七人。

二 校章・校歌について

1 校章

① 昭和十六年九月四日

② 熊谷市に合併し、熊谷市久下国民学校と校名が変わる。この時に新調された校旗に校章としてつけられている。熊谷市章の中に久下の「久」の字があしらわれている。

2 校歌

① 昭和三十九年三月二十七日

② 作詞・田島一宿(熊谷市歌の作詞者であり、点句創作吟詠の創始者)、作曲・木村 公一(東芝レコードのホープ作曲家)。三 学校のシンボル

1 アラカシ(粗樫)明治三十一年、医王寺から現在の場所に移ったときに植樹。百年以上もの間、久下小学校の児童を見守っている。

2 ムサシトミヨ 熊谷市の委託を受け、昭和六十二年から保護・繁殖活動を実施。三十七年目令和五年度調査では、三五五匹確認。

熊谷市立 久下小学校 校歌

田島 一宿 作詞
木村 公一 作曲

Moderato

mp

1. こがねのおおひ ばしら あらかわ
を さかのぼる すさまじのひ
の てひのて うたえこのあさ くさ
あ おくみずきよしくげしょう がっごう まな
べ ただし く わ れ ら

f

- 一、こがねの 大日柱おおひばしら
荒川を さかのぼる
すさまじの 日の出 日の出
うたえこの朝
- 草青く 水きよし 久下小学校
まなべ 正しく われら
- 二、すぐろの 大堤防おおていぼう
若草の みどり萌ゆ
笑みわるる ま春 ま春
跳ぶ子 走る子
小鳥なき 水うたう 久下小学校
伸びよ 明るく われら
- 三、ま白き 雪の小富士こふじ
山なみに みそなわす
意気たかし ま冬 ま冬
ぐつと胸張れ
風きびし 希望の芽 久下小学校
はげめ 仲よく われら